シーズン到来！春山登山

4/29　常念岳一ノ沢登山口

大型連休初日の4月29日、北アルプス常念岳へ向かう一ノ沢登山口には、早朝からシーズン到来を待ちわびた登山者が大勢訪れました。登山口に設置されている登山指導所では、警察から委託を受けた山岳指導員が常駐していて、登山者カードの受け付けや遭難事故防止に関する指導、登山案内などをしています。指導員の宮嶋博敏さん（穂高牧）は「春山登山は短い周期で天候が変わりやすく吹雪になりやすい。無理をせず下山することも必要」と登山者に呼びかけていました。取材の間にも、カラフルなリュックにアイゼンとピッケルを備えた登山者が次々に山頂を目指してスタートしていきました。

規律正しく

5/8　市消防団教育訓練

市消防団（小出博一郎（こいではくいちろう）団長）の教育訓練が5月8日、三郷中学校などで行われました。この日の訓練は、班長以上の幹部や新入団員など約320人が参加し、号令や礼式など基本動作の演習や、火災戦術・安全管理などの講義を受講しました。小出団長は、「安全に活動するため、基礎的なことをおろそかにせずこの機会に再確認してほしい」とあいさつで述べました。

被災地に届け歌声

4/29　第28回早春賦まつり

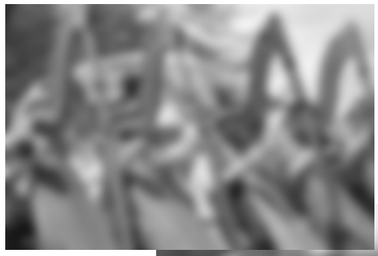
太陽の日差しがまぶしく感じた、4月29日、第28回となる恒例の早春賦まつりが、穂高川沿いの歌碑前で行われました。

今回は、東日本大震災・長野県北部地震復興祈念と銘打ち、子どもチャイム奏や三世代合唱、アルパクラブによる演奏の後、会場の全員で早春賦を合唱。桜の花びらが残る碑の前から、被災地に届けとばかりに多くの人の声が響き渡りました。

会場には募金箱が置かれ、出演したアルパ奏者の上松美香さんが最後に箱を持ち、募金した人たちと親しく会話や記念撮影に応じると、多くの人が集まっていました。

埼玉県から来たという女性は、「すがすがしいお天気で気持ちがいい。被災地の事を思うと心から安らげないが、思いを歌に込めた」と話しました。

会場の周りではウグイスの声も響き、川沿いに座っておにぎりをほお張る親子連れの姿も見られました。



音楽性をはぐくんで30年の節目

5/5　第48回童謡祭り

第48回童謡祭りが5月5日、豊科公民館ホールで開催されました。この催しは、多くの童謡を作詞した豊科出身の文学者・藤森秀夫をしのぶと同時に子どもたちの音楽性をはぐくむことを目的に、毎年、「子どもの日」に行われています。

昭和57年から同時開催され、今回、30周年の節目を迎えた、小中学生の作詞作曲コンクールでは、49作品の中から豊科南中1年・一色祐吾さんの「つぎの空へ」が最優秀賞を受賞しました。

毎年、審査をしている豊科出身で作曲家の飯沼信義さんは、「30年続けているのは全国でもここだけ、誇りに思う。作詞作曲は楽譜の知識がなくても、絵や図形でもよいので思ったことを形に残してみることがまず大事」と講評しました。

当日は、市内の子どもたちやコーラスグループ、家族連れなど約600人が参加、童謡「めえめえ児山羊（こやぎ）」を合唱したほか、招待演奏では、信州大学グリークラブによる男声合唱を聞くことができました。

つなごう！直売所の絆

4/16・17　5直売所で野菜の販売支援

市直売所連絡協議会（三澤勇会長）は4月16日と17日の2日間、震災や風評被害に見舞われている農家を支援しようと、福島県産の農産物や特産品の販売支援を市内5カ所の直売所で行いました。「全国直売所サミットが縁で始まったこの取り組みは全国でも初。直売所のネットワークを通じた被災地支援の輪が広がればいい」と会長の三澤さんは意気込みを話しました。家族で買い物に訪れていた桑原幸正さん（堀金烏川）は、「被災地の野菜を少しでも買うことで、農家の皆さんの支援をしたい」と話してくれました。

新社会人　決意を新たに

4/19　新規学卒就職者研修会

市と市商工会は4月19日、新規学卒就職者研修会を安曇野スイス村サンモリッツで開きました。本年度は市内34社に79人が入社。研修会には62人が参加しました。

市内の商社に就職した丸山薫さんは、代表あいさつの中で「超氷河期の就職難を経験した自分の力を会社や地域、震災で被害を受けた日本のために発揮したい」と決意を述べました。

また、式の後には市内企業の人事担当者による「社会人としての“あ・し・か”」と題した講演が行われました。参加者は、あいさつの仕方や、信頼関係を築くための実技などを研修し、新社会人としての一歩を踏み出しました。